

小原古邨

OHARA KOSON

海をこえた花鳥の世界 — 原安三郎コレクションを中心に

展覧会名: 小原古邨 海をこえた花鳥の世界—原安三郎コレクションを中心に
会 期: 2022年9月3日[土]~10月23日[日]
会 場: 佐野美術館
開館時間: 午前10時~午後5時(入館の受付は午後4時30分まで)
休 館 日: 木曜日
入 館 料: 一般・大学生1,100円 小・中・高校生550円 * 毎週土曜日は小中学生無料
主 催: 佐野美術館、三島市、三島市教育委員会、静岡新聞社・静岡放送
後 援: 静岡県教育委員会
特別協力: 中外産業株式会社
企画協力: 石川県立歴史博物館、北國新聞社
協 賛: 伊豆箱根鉄道株式会社

欧米で愛された花鳥の美

佐野美術館は、2022年9月3日[土]から10月23日[日]まで、明治後期から昭和初期にかけて活躍した絵師・小原古邨(1877~1945)の展覧会を開催します。

小原古邨は石川県金沢に生まれ、花鳥画の名手・鈴木華邨に学び、後に木版画を手掛けました。日本の美意識を描き表わした古邨の花鳥版画は欧米で人気を博し、美術館や個人コレクターに収集され、現在まで高い評価を受けています。しかしながら我が国では長年知られざる絵師となっていました。

日本において熱い視線を集めるきっかけとなったのが、近年初公開された原安三郎^{はらやす さぶろう}コレクションの250点余の小原古邨版画です。原安三郎(1884~1982)は、日本化薬株式会社社長・会長を長年務めた実業家で、優れた浮世絵収集でも知られます。原氏が佐野美術館二代目理事長を務められた縁から、当館での本展開催が実現しました。

同コレクションを中心に、小原家所蔵の名品、師・鈴木華邨の絵画など約100点を展観します。

展覧会のみどころ

小原古邨の花鳥版画は、写実に基づいた精緻な自然描写が実に見事で、生き物や花に対する絵師のあたたかなまなざしをも感じさせます。

明治後期には伝統的な浮世絵版画の版元大黒屋^{ごっけい}や滑稽堂にて、大正末期頃からは新版画を推進する渡邊庄三郎^{わたなべしやうさぶろう}の渡邊版画店より祥邨^{しやうそん}の号で、また酒井庄吉^{さかいしやうきち}・川口商会からは豊邨^{ほうそん}の号で木版花鳥画が世に出されました。

古邨の優れた表現力と、彫師・摺師の卓越した技とのコラボレーションから生まれた傑作をお楽しみください。

日本画家として出発した古邨ですが、現存する肉筆画は極めて少なく国内で数点が確認されるのみです。本展にて、20代前半頃に描かれた《木菟^{みみずく}》と66歳の作《双鯉^{そうり}》をご覧いただけます。

※新型コロナウイルス感染症の今後の状況により、展覧会の内容を変更する場合があります。

広報用画像

本展の紹介記事等を掲載される場合には、1～8の画像と、展覧会チラシ掲載の画像をデータで提供できます。メールか電話でご連絡ください。

※画像掲載をする場合、作品クレジットの明記をお願いします。



1.



2.



3.



4.



5.



6.



7.



8.

1. 小原古邨《踊る狐》 1904-13年 中外産業株式会社 原安三郎コレクション
2. 小原古邨《蓮に雀》 1904-13年 中外産業株式会社 原安三郎コレクション
3. 小原古邨《竹に雀》 1904-13年 中外産業株式会社 原安三郎コレクション
4. 小原古邨《紫陽花に雀》 1904-13年 中外産業株式会社 原安三郎コレクション
5. 小原古邨《雪の柳に鳥》 1904-13年 中外産業株式会社 原安三郎コレクション
6. 小原祥邨《雨中の鷺》 1928年 渡邊木版美術画舗蔵
7. 小原豊邨《猫と提灯》 1929-42年 小原英樹蔵
8. 小原古邨《木兔》絹本着色 1900年頃 中外産業株式会社 原安三郎コレクション

お問い合わせ

佐野美術館 広報グループ 深沢・西脇

〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43 TEL 055-975-7278 FAX 055-973-1790

URL <https://www.sanobi.or.jp/> EMAIL koho@sanobi.or.jp

※新型コロナウイルス感染症の今後の状況により、展覧会の内容を変更する場合があります。